

遺伝子組換え混入基準を厳しくした場合、「トウモロコシ」が問題

5%基準が設けられている理由：IPの導入により遺伝子組換え食品をできるだけ少なく抑えたトウモロコシを大量に供給するため。

0%基準が求められている理由：「組換えでない」表示と実態とを一致させるため。

パターン	表示例	5% 基準		0% 基準	
		遺伝子組換え不分別	遺伝子組換え混入を防止 等 (今の IP ハンドリングを行う)	遺伝子組換えでない (新規基準となる)	
◆パターン1	0%基準を <u>厳格化</u> した場合	該当製品はほとんどない	多くの製品がこの表示	「組換えでない」表示はなくなる	パターン1
◆パターン2 基本形	0%基準を <u>緩和</u> した場合 例えば、国内産のものや、組換え未作付国のものは「組換えでない」としても良いなど (予想価格)	例えば不分別を使用した食品が100円だったとして… (基準値=100円)	120円程度 IPハンドリングによるコストが上昇する(例えば2割増)	300~500円程度 「組換えでない」表示がプレミアムなものになる (例えば国内産だと3~5倍程度になった場合) 新たな表示基準となるため、新たなIPハンドリング(第2IP)が必要になる	パターン2
◆パターン2-①	消費者の多くがプレミアムな「組換えでない」製品を買うことができる場合	100円(基準値) ほとんどの製品がここに属することになる	120円程度 製品の購入動機がなくなり、現在のIPハンドリング制度は消える可能性がある (これを危惧している)	150~200円など、比較的安価で提供された場合 組換えでないものを求める消費者のほとんどがこの製品を買う (この場合、0%基準はかなり緩い)	パターン2-①
◆パターン2-②	消費者の一部のみプレミアムな「組換えでない」製品を買うことができる場合	100円(基準値) 該当製品はほとんどない	120円程度 製品数は少し減少する程度	1000円など、高価格で提供された場合 プレミアムな「組換えでない」製品は一部にとどまる (この場合、0%基準はかなり厳しい)	パターン2-②

※価格の数値は極端な例として挙げているもので、現実の数字ではありません

※トウモロコシ以外の遺伝子組換え食品に関しては何とかなるように思っています

表示内容がより分かりにくくなるため、この部分の製品を消費者のみなさんが「買う」か否かがこの表示制度の行方を決める。